

平成 21 年度前期日程入学試験問題

小 論 文 C

教 育 学 部

学校教育教員養成課程

言語・社会教育系 社会選修…………… 1～ 3 ページ

理数教育系 理科選修…………… 4～ 6 ページ

生活科学教育系 家庭選修…………… 7～ 11 ページ

教育科学系 教育基礎選修…………… 12～ 16 ページ

特別支援教育コース…………… 17～ 20 ページ

養護教諭養成課程…………… 21～ 23 ページ

人間環境教育課程

環 境 コ ー ス…………… 4～ 6 ページ

注 意 事 項

- ① 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- ② この冊子には課程・選修・コース別に問題が出されているので、選択を間違えないようにしなさい。ただし、学校教育教員養成課程 理数教育系 理科選修と、人間環境教育課程 環境コースは、共通問題になっています。縦書きの問題は裏表紙から始まります。
- ③ 解答は、別紙の解答用紙に、指定字数に従って、横書きで記入しなさい。
- ④ 受験番号は、解答用紙 1 枚ごとに指定の欄に記入しなさい。
- ⑤ 解答用紙の「問いの番号」の欄に、「問 1」または「問題 1・問 1」のように記入してから答えなさい。
- ⑥ 冊子内の課程・選修・コース別の中表紙に注意書きがあるので、解答する前に必ず読みなさい。

学校教育教員養成課程

言語・社会教育系 社会選修

注 意

1. 問題1～問題4のうちから2つの問題を選んで解答しなさい。
2. 解答用紙はその1，その2があります。1問題あたり1枚の解答用紙を用いなさい。

問題 1 次の問 1～3 のうちから 2 問を選択し、それぞれ 300 字以内で答えなさい。

なお、解答文中では、問ごとに下の〔 〕内に掲げた用語をすべて用いなさい。各用語の使用の順序は自由です。また、() 付きの用語はどちらか一つを用いること。

問 1 中国の南北朝時代の東アジア世界について述べなさい。

〔均田制, 高句麗, 江南地方, 石窟寺院〕

問 2 現在のイラン地域における、ヘレニズム時代後から近代に至るまでの歴史について述べなさい。

〔イル＝ハン国(イル汗国), サファヴィー朝, セルジューク朝(セルジューク＝トルコ), ゴロアスター教〕

問 3 19 世紀半ばころから第一次世界大戦に至るまでのヨーロッパの国際関係について述べなさい。

〔クリミア戦争, 三国同盟, 普仏戦争, ベルリン会議(ベルリン条約)〕

問題 2 次の問 1～3 のうちから 2 問を選択し、それぞれ 300 字以内で答えなさい。

なお、解答文中では、問ごとに下の〔 〕内に掲げた用語をすべて用いなさい。各用語の使用の順序は自由です。

問 1 浄土教とその文化について述べなさい。

〔阿弥陀堂, 『往生要集』, 空也, 現世利益〕

問 2 18 世紀後半から 19 世紀初頭までの蝦夷地の動向について述べなさい。

〔大黒屋光太夫, 箱館奉行, 最上徳内, ラクスマン〕

問 3 明治の教育政策について述べなさい。

〔学制, 学校令, 教育勅語, 自由民権運動〕

問題 3 次の問1～3のうちから2問を選択し、それぞれ300字以内で答えなさい。

なお、解答文中では、問ごとに下の〔 〕内に掲げた用語をすべて用いなさい。各用語の使用の順序は自由です。

問 1 エルニーニョ現象について述べなさい。

〔アンチョビー、異常気象、海面水温、ペルー〕

問 2 第二次世界大戦後の大ロンドン計画について述べなさい。

〔グリーンベルト、職住近接、田園都市、ニュータウン〕

問 3 アマゾン川流域における開発と環境問題について述べなさい。

〔アマゾン横断道路、カラジャス、ゴム、セルバ〕

問題 4 次の問1～4のうちから2問を選択し、それぞれ300字以内で答えなさい。

なお、解答文中では、問ごとに下の〔 〕内に掲げた用語をすべて用いなさい。各用語の使用の順序は自由です。また、()付きの用語はどちらか一つを用いること。

問 1 中国における儒教の展開について述べなさい。

〔王陽明、朱子学、知行合一、理気二元論〕

問 2 近年の日本における労働者の状況の変化について述べなさい。

〔外国人労働者、規制緩和、バブル崩壊、非正規雇用(非正規労働)〕

問 3 地球温暖化問題をめぐる近年の動きについて述べなさい。

〔京都議定書、持続可能な発展、新興国、代替エネルギー(新エネルギー)〕

問 4 20世紀における人権思想の展開について述べなさい。

〔新しい人権、社会権、自由権、ワイマール憲法〕

学校教育教員養成課程

理数教育系 理科選修

人間環境教育課程

環境コース

注 意

1. 問題1～問題4のうちから2つの問題を選んで解答しなさい。
2. 解答用紙はその1, その2があります。1問題あたり1枚の解答用紙を用いなさい。

問題 1 以下の問に答えなさい。

月面では物体の重さが地球上の約6分の1になる。これに基づいて、物体を一定の速さで真上に投げ上げて最高点の高さを比較する実験を月面と地球上で行った場合の結果を推定し、400字以内の文章にまとめなさい。なお、記号を用いる場合にはその意味を文中に明記し、数式を用いる場合には英数字や記号は2文字で1マスを目安とすること。

問題 2 以下の2問に答えなさい。

問 1 酸化還元反応の反応式を1つ示しなさい。また、酸化・還元反応の定義について合計200字以内で説明しなさい。なお、反応式を示す際には、英数字や記号は2文字で1マス、矢印は1マスを目安とすること。

問 2 酸と塩基の定義は何種類か存在する。そのうちの2種類について、その違いが分かるように合計200字以内で説明しなさい。なお、化学式・組成式などを用いる場合には英数字や記号は2文字で1マスを目安とすること。

問題 3 以下の2問に答えなさい。

問 1 動物は、外界からの光や音、臭いなどの刺激をそれぞれの受容器によって感じとり、その情報に基づいて適切に行動することができる。受けとった刺激は受容器によって電気信号に変換された後、神経によって脳に伝えられ、そこで光や音の情報として処理、知覚される。刺激による興奮が神経細胞の軸索を伝導するしくみと、軸索の末端から次の細胞に伝達されるしくみについて250字以内の文章で説明しなさい。

問 2 ヒトの光受容器である目がもつ機能の中で、遠近調節と光量(明暗)調節のしくみについて150字以内の文章で説明しなさい。

問題 4 以下の問に答えなさい。

地球には、高度5000 mを超える山々からなり、堆積岩・火成岩・変成岩など様々な岩石からなる山脈が分布している。このように高く、長く連なり、様々な岩石からなるという特徴をもつ山脈のでき方を、プレートテクトニクスに基づいて400字以内の文章で説明しなさい。

学校教育教員養成課程

生活科学教育系 家庭選修

注 意

問 1, 2は解答用紙(その1), 問 3, 4は解答用紙(その2)を用いて答えなさい。

平成21年度 入学試験問題訂正等用紙

一般選抜 前 期日程

教科・科目等：小論文C

学部・学科等：教育学部 学校教育教員養成課程
学校教育コース生活科学教育系家庭選修

訂正等種別	
<small>(該当する番号を○で囲む)</small>	
①	問題の訂正
2	解答用紙の訂正
3	補足説明

10ページ 図2の説明文2行目

誤：世帯の種類，世帯人員別世帯及び…

正：世帯の種類，世帯人員別世帯数及び…

問題 次の文章を読んで、問に答えなさい。

現代社会における私たちの日常生活は、モノやサービスを購入し、それらを消費することにより成り立っているといっても過言ではない。産業革命以降、製品供給量の絶対的な不足のもとで生産優位の社会関係が続いてきたが、20世紀半ばになると供給が需要を上回るようになり、生産と消費の立場は逆転した。そして生産する側の企業は、他社との激しい競争の中で、消費者を獲得し続けていくために、より高性能で利便性の高い、しかも安価なさまざまなタイプの製品を短いサイクルで大量に開発・生産していった。そのいっぽうで、消費者も、「踊らされた消費生活」⁽¹⁾という表現が端的に状況を示すように、企業の巧みな宣伝広告や販売促進の影響を受け、さらなる物的充足と利便性、快適性を求め、感性にしたがって気楽にモノを購入し、廃棄するという消費スタイルを拡大させていった。

(中略)

現在の地球環境問題を引き起こしている要因が、企業活動だけではなく、そのような産業活動を誘発している消費者のライフスタイルに大きく関係していることに注意を払わなければならない。企業による環境保全のための技術革新や、政府・自治体による環境規制やインフラストラクチャーの整備など、制度の変革を進めていくことは極めて重要なことであるが、それらの変革だけで環境問題に対応していくことも不可能である。むしろ、大量生産・大量消費・大量廃棄を中心とした、現在の経済社会システムを形成する根本となっているライフスタイルそのものを、環境負荷の少ないものへと変革していくことが必要となる。

個々の消費者は「環境を変えるためには自分ひとりの力ではどうしようもない」という意識から脱却し、「誰にでもできる」という意識改革をすることからはじめなければならない。もちろん、私たちひとりひとりの力は微力であるが、まとまれば大きな運動となって社会や行政を動かしていくことも可能となるのである。また、私たちが環境を守るためにしなければならないことは、単に購買行動を我慢したりやめるということではなく、購買行動を起こす際に、自分の行動がどのように環境へ影響を与えるのかを正しく認識し、それを配慮した行動をとることである。

日常生活における環境への負荷としては、電気やガスなどのエネルギー利用によって起こる、二酸化炭素の排出、自動車の利用にともなう排気ガス、家庭から出るごみ、台所からの排水などが挙げられる。現代生活においては、これらのエネルギーの利用や商品購入は不可欠なものであり、それを止めることはできないが、消費者の努力や工夫によって環境への負荷を減らすことは可能である。⁽²⁾

(中略)

環境問題に対する意識が社会全体に浸透し始めるにつれて、製品やサービスを購入する際に環境を意識するグリーン・コンシューマーの存在が脚光を浴びることになった。彼らグリーン・コンシューマーは、これまでの使い捨て型のライフスタイルを見直し、生活者の意識改革を通して、より環境負荷の小さい商品を積極的に購買しようとする。そして、環境に対して負荷の大きい商品が供給され続けているのは、(市場経済の観点から見れば)消費者の責任と考える。つまり、「需要のないところに供給はありえない」との認識を共有しているのである。近年においては、消費者の環境を意識した活動はさらに活発になってきており、消費者主導によって環境に配慮した社会を地球規模で創造していこうとする、いわゆるグリーン・コンシューマリズムの動きも活発化している。そして、単に環境に配慮した商品の購入にとどまらず、企業や流通・小売業に対して生産過程で環境負荷の少ない資材と原料の使用や、積極的な環境対策を呼びかけたり、リサイクル運動の提案をおこなったりしている。また、行政に対しても環境問題に対する施策の実施、法律や条令の制定を呼びかけている。

(竹市明弘・植田和弘・片山幸士編『人間環境の創造 持続可能な文明のために』
勁草書房、1999年、195～199頁より。一部中略・改変)

執筆者 岡本純「環境と消費行動」

執筆者については、試験時には記載しておりませんでした。

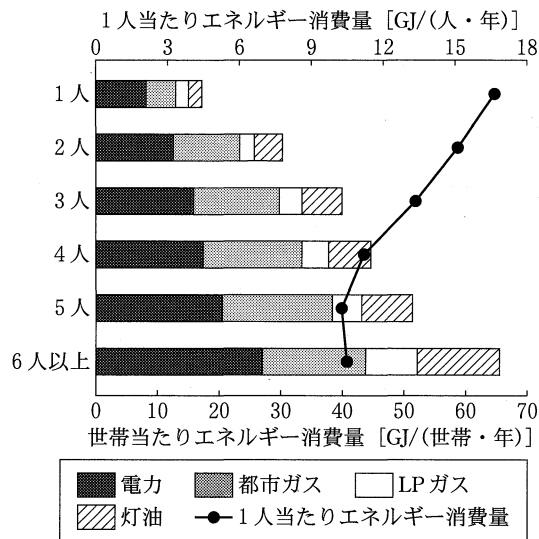


図1 世帯人数別1人あたりエネルギー消費量

資料：環境省『平成20年版環境・循環型社会白書』(2008年, 28頁)：

日本建築学会環境系論文集第583号(2004年9月)：長谷川善明，井上隆：全国規模アンケートによる住宅内エネルギー消費の実態に関する研究より環境省作成

注：GJ(ギガジュール)とはエネルギー量の単位で，J(ジュール)の10億倍の単位

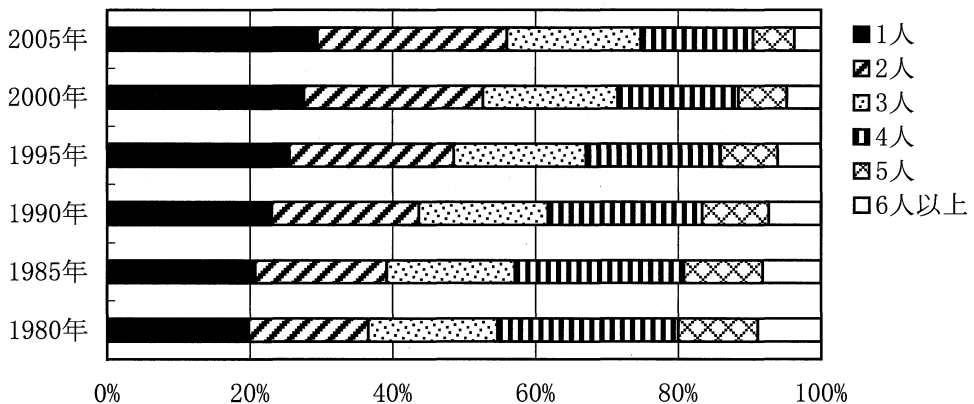


図2 一般世帯における世帯人員別世帯数

資料：総務省統計局『第57回 日本統計年鑑』(2007年, 59頁)：

世帯の種類，世帯人員別世帯及び世帯人員より数値を引用して図を作成

- 問 1 下線(1)「踊らされた消費生活」とは、どのようなことか具体的な例を挙げて説明しなさい。(250 字以内)
- 問 2 家庭のエネルギー消費は増えているといわれていますが、図 1, 図 2 から考えられる理由を説明しなさい。(200 字以内)
- 問 3 グリーン・コンシューマーについて説明しなさい。(150 字以内)
- 問 4 下線(2)にあるように、環境への負荷を減らす行動・意識について、具体的な例を挙げて述べなさい。(400 字以内)

学校教育教員養成課程

教育科学系 教育基礎選修

注 意

設問1・2は解答用紙(その1)を、設問3は解答用紙(その2)を用いて答えなさい。

問題 次の文章を読み、後の設問に答えなさい。

唐突にとおもわれるかもしれないが、近代の都市生活というものは寂しいものだ。「近代化」というかたちで、ひとびとは社会のさまざまなくびき、「封建的」といわれたくびきから身をもぎはなして、じぶんがだれであるかをじぶんで証明できる、あるいは証明しなければならない社会をつくりあげてきた。すくなくとも理念としては、身分にも家業にも親族関係にも階級にも性にも民族にも囚われない「自由な個人」によって構成される社会をめざして、である。「自由な個人」とは、彼／彼女が帰属する社会的なコンテキストから自由な個人ということだ。そして都市への大量の人口流入とともに、それら血縁とか地縁といった生活上のコンテキストがしだいに弱体化し、家族生活も夫婦を中心とする核家族が基本となって世代のコンテキストが崩れていった。さらに社会のメディア化も急速に進行し、そうして個人はその神経をじかに「社会」というものに接続させるような社会になっていった。いわゆる中間世界というものが消失して、個人は「社会」のなかを漂流するようになった。

社会的なコンテキストから自由な個人とは、裏返していえば、みずからコンテキストを選択しつつ自己を構成する個人ということである。じぶんがだれであるかをみずから決定もしくは証明しなければならないということである。言論の自由、職業の自由、婚姻の自由というスローガンがそのことを表している。けれども、そういう「自由な個人」が群れ集う都市生活は、いわゆるシステム化というかたちで大規模に、緻密に組織されてゆかざるをえず、そして個人はそのなかに緊密に組み込まれてしか個人としての生存を維持できなくなっている。つまり、じぶんで選択しているつもりでじつは社会のほうから選択されているというかたちでしかじぶんを意識できないのだ。社会のなかにじぶんが意味のある場所を占めるということが、社会にとっての意味であってじぶんにとっての意味ではないらしいという感覚のなかでしか確認できなくなっているのだ。そこでひとは「じぶんの存在」を、すこし急いで、わたしはわたしとして名ざしをする他者との関係のなかに求めるようになる。すでに述べたことだが、わたしの存在は他者の意識の宛先となっているというかたちで、もっともくっきり見えてくるものだからだ。こうして私的な、あるいは親密

な個人的関係というものに、ひとはそれぞれの「わたし」を賭けることになる。近代の都市生活とは、個人にとっては、社会的なもののリアリティがますます親密なものの圏内に縮められてゆく、そういう過程でもあるのだ。

現代の都市生活者の存在感情の底にあまねく静かに浸透してきているようにおもわれる「寂しさ」、それが、いま、だれかと「つながっていたい」というひりひりとした疼き^{うず}となって現象しているのではないだろうか。ケータイはその意味できわめて現代的なツールだ。だれかとの関係のなかで傷つく痛みのほうが、身体のフィジカルな痛みよりも、よほどリアルだという、そういう〈魂〉の光景が、そこに映じだされているようにおもう。

そのなかでひとがおそらく最初に求めるのは、じぶんが、あるいはその存在が「肯定されて」あるという感情だろう。

緊密に、そして大規模にシステム化された社会というのは、「資格」が問われる社会である。ひとびとの生活の細部まで支えているシステムを維持するために——食べるという、生きるうえでもっとも基礎的なことなみですら、飼育・栽培、製造・調理、流通・販売の複雑なシステムにそっくり組み込まれてしか成り立たなくなっているのが現代の生活だ——、それにふさわしい行動の能力が求められる。システムが複雑化するというのは、そういう行動能力の育成に複雑なプロセスが要するということでもある。つまり、教育課程が長くなるということ。今日では幼稚園に通う前から教育は始まり、そこから最低でも十数年教育は続く。

「資格」が問われるというのは、もしこれができる、次にこれができる……ということだ。そこでは何をやるにしても条件が問われる。そして条件を満たしていなければ「不要」の烙印を押される。「あなたの存在は必要ない」と。だから、じぶんの子どもが将来こういうみじめなことにならないように、親たちはずいぶん幼いころから教育を受けさせる。「これをちゃんとやったらこんどの日曜日に遊園地に連れて行ってあげますからね」から「こんな点数をとるのはおれの子じゃない」まで、いろんな脅迫の言葉を向けながら、だ。「もし～できれば」という条件の下で、じぶんの存在が認められたり認められなかったりするという経験を、子どもはこうしてくりかえしてゆくことになる。じぶんの存在はひとに認められるか認められないかで、あたりなかつたりする、そういうものなのだ、という感情を募らせてゆくの

だ。これを言いかえれば、じぶんというものに「なる」途上にいる子どもたちにとっては、じぶんが「いる」に値するものであるか否かの問いを、ほとんどポジティブな答えがないままに、恒常的にじぶんに向けるようになるということである。じぶんというものの「死」にそれとははっきり意識しないままにふれつづけるということである。

このような鬱屈^{うっくつ}した気分のなかで、子どもたちは何もできなくてもじぶんの存在をそれとして受け容れてくれるような、そういう愛情にひどく渴くようになるのだろう。つまり、なんの条件もつけないで「このままの」じぶんを認めてくれる他者の存在に渴くということだ。「できない」子どもだけではない。「できる」子どもも、あるいは「できる」子どものほうがと言ったほうがいいかもしれないが、上手に「条件」を満たすさなかに、もしこれを満たせなかったらという不安を感じ、かつそれを(かろうじて?)上手に克服しているじぶんを「偽の」じぶんとして否定する、そういう感情を内に深く抱え込んでいるはずだ。

だから、子どもたちや十代のひとたちは、じぶんをじぶんとして「このままで」肯定してくれる友だちや恋人を、これまでのどの時代よりも強く求めるようになっていらい。だれかと「つながっていたい」という言葉もそこから出てきているようにおもわれてならない。じぶんを肯定できるかどうか、そのことじたいに大きな不安を感じているのが、いまの子どもたちではないか。大人たちが別の文脈から「つながり」の大切さを言うときには、いまの子どもたちの「つながっていたい」という気持ちの裏面にはこうした他者との遮断の認識が深くあることを見逃してはならないようにおもう。

(鷺田清一『感覚の幽^{くら}い風景』(紀伊國屋書店 2006年 115-120頁 一部省略・変更した))

設問 1 近代の都市生活において人々はなぜ「私的な、あるいは親密な個人的関係」に自らの存在を賭けるようになるのか、上の文章に即して、述べなさい。
(150字以上 200字以内)

設問 2 上の文章に基づくかぎり，子どもたちは，友だちに無視されることによってけなされる以上に傷つくことが想像される。その理由について，上の文章に即して，述べなさい。(150 字以上 200 字以内)

設問 3 もしあなたが教師になったとしたら，「資格」を問われる社会を生きる子どもたちとどのようにかかわっていきたいと考えるか。上の文章を参考にしながら，あなたの考えをできるだけ具体的に述べなさい。(400 字以内)

学校教育教員養成課程 特別支援教育コース

注 意

問1～問4は解答用紙(その1), 問5は解答用紙(その2)を用いて答えなさい。

問題 以下は「キャリア教育」に関する文章です。キャリア教育とは、自分の将来設計について考えながら、人々の「自分づくり」や「人生づくり」のサポートをするものです。このことをふまえて、以下の文章を読み、問いに答えなさい。

私は、職業観や勤労観を育てるためのキャリア教育—直接的なキャリア教育—は、小学校五年生くらいからでいいと考えています。小学校低学年からのキャリア教育①においては、より基礎的な能力—キャリアを形成するのに必要な意欲・態度・心構え・能力・スキルなど—を幅広い角度から育てていくべきだと考えているのです。

例えば、キャリア形成に必要な能力・スキルの育成という角度からみれば、構成的グループエンカウンターで友達づくりの経験をする 것도、キャリア教育の一環と言えるわけです。見知らぬ人に話しかけることができるのも一つの能力ですし、テストの点が悪くても「次がんばろう」と前向きな態度になれるのも、キャリア形成の基礎的な能力と考えることができます。

このようにキャリア教育を幅広くとらえてはじめて、小学校低学年から導入できるといえるのです。こうした考え方があってこそ、「キャリア教育の目的は、すなわち教育の目的そのものである」②という考えも生きてくるのです。

そうなると、キャリア教育といっても、とくにこれまでやってこなかった新しいことをやる必要はなくなってきます。現在、自分の学校ですでに行われているさまざまな教育活動が実はそのまま、キャリア教育なのです。これまでもすでに行ってきた多様な教育活動をキャリア形成との関連で理解し、整理していくこと。そうした枠組みとして、キャリア教育という考えを理解していただいても差し支えありません。年間教育計画を立てる、あるいは具体的なカリキュラムをつくるというときに、学校の教育全体をこんなふうに組み立てていこうという視点・枠組みとして「キャリア教育」という概念があると理解すればいいのです。言い換えれば、子どものキャリア形成とのかかわりという視点・枠組みで行われる教育はすべてキャリア教育になりうるのです。

(中略)

小学校段階でのキャリア教育では、「この職業につきたい」ということを具体的に意識させるよりも、夢見る力のほうがはるかに大切だと思います。最近では世の中全体が現実的になりすぎて、子どもが夢を語っても、大人たちがそんなことは無理だとか、こんなふうになりなさいと決めつけてしまいがちです。

しかし、自由に人生を夢見る心地よい体験を重ねていくことは、子どものキャリア形成において非常に重要なことなのです。キャリア教育は自らの人生の物語を紡いでいく作業にほかならないからです。

さまざまなイメージや言葉によって紡がれた自分についての物語、自分はどんなふうに進んできたのだろうか、自分はどんな人生を歩いていくのだろうかという物語の総体こそが「自己」にほかなりません。完璧な物語でなくていいし、断片的な物語でもかまいません。夢見る力があれば、将来に向かって進んでいくことができるのです。

勉強もせずにアニメを見たり冒険物語を読みふけったりすることも、大人の目には現実逃避のように映るかもしれません。しかし、そうした制約を受けない時間の中で、子どもたちは夢見る力を育てていくのです。子どもたちはこうした夢見る体験を通じて、正義の味方になりたいとか、注目を集める人になりたいとか、困っている人を助けてあげたいとか、自分の価値観に合った夢を見ているのです。

そのとき大人はいい悪いの評価をするのではなく、子どもたちの夢見る体験を共有してほしいと思います。これからの時代には、与えられた課題を遂行する力(例：指示どおりに製品を作る)以上に、新しい課題を発見し、仕事を作り出していく能力が求められます。子ども時代の夢見る体験が、実はそうした将来の能力の種になるのです。

諸富祥彦『「7つの力」を育てるキャリア教育』(図書文化社、2007年、19—21頁および71—72頁)

注) 構成的グループエンカウンターとは、学校カウンセリングの手法の一つで、さまざまなグループ活動を通してクラスの仲間作りをしたり、友達との関わり方を学ぶものである。

- 問 1 下線①について、筆者が考えている「小学校低学年からのキャリア教育」とはどのようなものですか、80字以内でまとめなさい。
- 問 2 下線②について、筆者は「キャリア教育の目的は、すなわち教育の目的そのものである」と考えているが、筆者は教育全体との関係においてキャリア教育をどのようにとらえているか、120字以内で説明しなさい。
- 問 3 下線③について、その理由を40字以内で簡潔に述べなさい。
- 問 4 下線④について、「夢見る心地よい体験を重ねていくこと」はキャリア教育においてどうして重要なのですか。筆者の考えを160字以内で説明しなさい。
- 問 5 筆者はキャリア教育を人生設計の教育であり、中でも、人との出会い、夢見る力が重要であると考えています。こうしたキャリア教育の視点をふまえて、あなたが特別支援教育コースを志望した理由を400字以内で述べなさい。

養護教諭養成課程

注 意

問1・2は解答用紙(その1), 問3・4は解答用紙(その2)を用いて答えなさい。

問題 次の文章を読み、問1から問4のすべてに解答しなさい。

「先生」という言葉は、それ自体が敬語です。人の名前の下にくっつけて、その人①への尊敬をあらわすような使い方をして、そういう場合は「敬称」と言います。「称」は「呼び名」です。

「先生」と呼ばれる人たちは、そもそも「尊敬されるべき立場の人」なのです。だから「先生には敬語を使え」ということにもなります。

「尊敬されるべき立場の人」というのは、「尊敬する側の人」からは、離れたところにいます。つまり、遠いのです。「自分たちとは、いい意味で違う」と思われなかったら、人は尊敬なんかされません。つまり、尊敬される人は、尊敬する側の人間たちとは違うところにいる、その「違う」と思われる分だけ、遠いのです。

教室にやって来る先生は、教室の中では、一人だけ大人です。教室の生徒たちから見れば「一人だけ違う人」です。その先生が尊敬にあたいするかどうかは別にして、「一人だけ違う人」であることは、はっきりしています。だから、先生に対してはいろいろな感情が生まれるのです。

その先生がいい人で、その先生が好きになったら、「ねエ、先生」「ねエ、ねエ、先生」と呼びかけます。「先生」と呼ばれて、自分とは違うところにいることがはっきりしているその人を、もっと身近に感じたいから、「もっと近くにきてほしい」という思いをこめて、「ねエ、先生」と呼ぶのです。

「ねエ、先生」という呼びかたが、先生に甘えていることだけは確かです。でも、だからといって、それでまちがいだというわけではありません。「敬語の使いかたを知らない」というものでもありません。逆に「敬語」というものの意味を知っているからこそ、「ねエ、先生」という呼びかけになってしまうのです。

なぜかという理由はかんたんでしょう。「先生」という言葉自体が、「尊敬の意味を含む敬語」で、「先生」というものがそもそも遠くにいるものだからです。ほっとけば「遠いもの」になる——それがいやだから、「ねエ」と言って、近くに呼びよせようとしているのです。

「ねエ」は近くで、「先生」は「遠く」です。この正反対のふたつがいっしょになっているのですから、「ねエ、先生」という呼びかけは、矛盾したものです。「矛盾して

いるからまちがっている」と言いたい人はいっぱいいるかもしれませんが、これを「まちがいだ」と言う必要はありません。なぜかと言えば、「ねエ、先生」という矛盾した呼びかけを、どうして生徒がするのかを考えればわかります。

それを言う生徒は、「先生は遠くにいる人だけど、でも、もっと近くに来てくれるんでしょ？」と思って、そのことを確かめたがっているのです。つまり、「ねエ、先生」と言う生徒は、「先生」というものが遠くにいるものだということを知っているのです。「先生は尊敬の対象だ」ということを知っていて、「でも、そばに来てほしい」と思っているだけなのです。

これは当然、「許せる矛盾」で、「矛盾しているかもしれないけどかまわない」というものでしょう。これが「いけない」ということになったら、学校は最悪につまらないところになってしまいます。^②

(橋本治『ちゃんと話すための敬語の本』(筑摩書房 2005年 15-18頁, 一部改変))

問 1 下線部①「先生」はここでは学校の教師を指している。社会において学校の教師以外に「先生」と呼ばれている職種や人々の例を3つ以上挙げて、学校の教師を含めたそれらの職種や人々に共通している特性を300字以内で論じなさい。

問 2 下線部②の文が意味していることは具体的にはどのようなことをさすと考えられるか。あなたの考えを300字以内で論じなさい。

問 3 この文章全体を読んで、子どもと教師の関係はどのようなものであると考えるべきか。問題文の著者の立場にこだわらず、あなたの自由な考えを300字以内で論じなさい。

問 4 この文章全体を読んで、あなたが養護教諭であるとしたら、保健室にくる子どもたちとどのように接しようと思うか。自由に300字以内で論じなさい。